

あ い さ つ

金沢大学教育学部附属養護学校

校長 山口 勢

本校の創立は1964年（昭和39年）です。今年度で創立32年目を迎えました。現在小学部20名 中学部19名 高等部30名の計69名の児童生徒が学んでおります。

本校では昨年度から「豊かな心と生活をめざして」というテーマで研究に取り組んでいます。「豊かさ」を考える要因として「かかわり合い」と「その子らしさ」を取り上げ「豊かさ」を「人や自然や社会とのかかわり合いの中で その子らしくのびのびと生きること」と捉えました。

「かかわり合い」では子どもが自ら意欲的に他者や物へかかわる姿をめざしました。

「その子らしさ」では子ども一人一人が興味・関心のあることや得意なことに、より意欲的に取り組む姿をめざしました。これは「個性化」ということであり 自己実現の具体的なあらわれであります。

このようなテーマ設定の背景を見てみますと 1979年（昭和54年）に養護学校義務制が実施されました。また 1980年（昭和55年）には「国際障害者年」の制定があり 1983年（昭和58年）からは「国連・障害者の10年」の取り組みがありました。これらを通して障害児教育や福祉に社会的関心が集まると共にその環境整備が促進されることにもなりました。

教育面においては養護学校義務制により児童生徒の障害の程度の重度化、種類の多様化が顕著になりました。これに伴い昭和60年（1985年）前後から「一人一人の発達と障害に応じた指導」ということがいわれはじめました。それは 子どもたち一人一人の興味、関心、意欲、得意なことを尊重していくという姿勢でもあります。これは 今日言われている「子どもたちの内発的な学習意欲を喚起し、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などを学力の基本とする」新しい学力観にも通ずるところがあります。

また福祉面ではこの10年ほどの間に福祉の理念が変わってきたといわれています。障害者本人の意見を尊重する姿勢や 自己選択・自己決定が保障される生活を自立生活と考えるという自立の概念の枠の広がりなどです。

折しも社会ではノーマライゼーションに加えてQ.O.L（Quality Of Life 生活の質）が強調されるようになってきております。学校生活における望ましいQ.O.Lとはどういうものであるのか、そのためにどのような指導目標、指導内容、指導方法が適切なのかなど取り組む問題は数多くあります。

「豊かな心と生活をめざして」というテーマは以上のような背景から子どもたちの教育的ニーズを検討する中で出てきたテーマであります。

このテーマに沿って小学部 中学部 高等部がそれぞれの児童生徒の実態に即して目標を設定して実践を進めてきました。ささやかながらこの度 研究紀要としてまとめた次第であります。

皆様からの忌憚のないご意見を賜ることができれば幸いに存じます。

平成8年2月